

## 第4期多摩区区民会議 第5回コミュニティ部会 摘録

□開催日時	平成25年6月28日(水) 午後6時05分～8時05分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	辻野部会長、国保委員、小塚委員、戸高委員、西山委員、本多委員(以上、コミュニティ部会員) 石橋委員(以上、自然災害部会員)
事務局	門間課長、井川係長、奈良職員
コンサルタント	斉藤研究員、梅田研究員
傍聴者	1名

### 1 審議テーマの取組内容について

配布資料「区長への結果報告までの具体的な道筋を見通し、作業を進めよう！」について事務局から説明があり、4つの「具体的な取組」についての議論に入った。

辻野部会長 まず最初に、「(1) イベントカレンダーの作成」について、前回議論した点にしたがって、今回は行政が持っている6月から8月までの行事、地域教育会議が把握している行事についての資料が配布された。これらについて、また、これ以外にどんなイベントを付け加えたら良いか意見を出してください。

本多委員 これ以外にも地域で行われている祭りを載せるとよいと思う。一応名の通った地域の祭りについては、事務局に資料を渡してある。(事務局が本多委員が提供した資料を委員に配布した)。この祭りには商店街の祭りや区民祭などは抜けている。

戸高委員 そのイベントが他から人がやってくることを歓迎するイベントかどうかを検討すべきだと思う。

西山委員 地域のイベントはたくさんある。それらをすべて拾ったら、載せられないくらいあると思う。盆踊り、体育祭など主要な行事に絞るとよい。

国保委員 民家園通りや登戸東通りなどの商店街のお祭りは結構にぎやかだから加えるとよい。

小塚委員 高校、大学の学園祭はどうか。学園祭は受験の事前体験として見に来る傾向がある。小中学校の文化祭まで入れるかどうか。

石橋委員 小中学校は関係する家族しか興味はないのではないかな。なんでもかんでも入れるわけにはいかない。そこは割り切らないといけない。高校の学園祭もその学校に通う生徒の父兄くらいしかこないのではないかな。

小塚委員 多摩区には3大学があることが特色だから、大学の学園祭は入れたほうがよい。

西山委員 区がやっている老人会の祭りは入れたほうがよい。

本多委員 区全体の大きなイベントを入れる必要がある。

国保委員 たとえばどこかの地区で小さな音楽のイベントがあるという情報まで集めていると大変になるので、今回は代表的なイベントを載せればよいのではないかな。イベントを掘り出し始めると、多くなりすぎて大変なことになる。

辻野部会長 とりあえず、今年はカレンダーに載せる選択の基準を決めて、代表的なイベントを載せたカレンダーを作成する。そのあとでもっと増やすとか、内容の解説についてどんなことを載せたらよいのかといったカレンダーを今後とも作成するための検討事項がでてくるだろうが、今年はとにかく一定程度のものを作成するというにすることにする。地域の祭りや商店街の祭りはどこに聞いたらよいのか。

戸高委員 地域の祭りについては町内会が情報をもっていると思う。

石橋委員 盆踊り、秋祭り、運動会・体育祭などの祭りに関しては町内会・自治会にアンケートをとればよいし、商店街の祭りについては商店街連合会に聞くとよい。老人会の祭りは区老連に聞けば出てくる。

辻野部会長 これらの情報は事務局で集めてくれるのだろうか。

事務局 正直いってすべてを事務局がやるのは厳しい。他の3つの具体的な取組の道筋も検討し、それらの作業全体のボリュームを見ながら、どの項目は誰が調べるかについて今後さらに検討することになると考える。

辻野部会長 では次の「学びのフェアで出合いの趣味活動」について、検討しよう。団塊の退職世代を地域に取り込もうということだが、これまでの検討では市民館との連携を考えて実施しようということだった。前回までは、3月の学びのフェアに参加することを議論してきたが、その場合、報告までの期間が短すぎて、よいまとめができるかが難しい。そこで、8月25日に行われる市民館デーの日になんらかの試みをやってはどうかという話が出てきた。

事務局 3月に行われる学びのフェアはこれから実行委員会を積重ねて内容を決めていく形式で、区民会議の意向をそのまま反映できるかどうか難しい点も想定される。8月に行われる市民館デーは、市民館の存在をもっと地域みなさんに知ってもらおうという、今年初めての取組。そこに1部屋スペースを確保してこれまで議論してきた趣味の活動を試してやってみるのはどうか。市民館デーでは子ども区民会議も行われるが、それとコミュニティ部会で行う内容は別の企画だ。

国保委員 ふれあいの道具としてこれまで囲碁・将棋を挙げていたが、女性になじみやすいものが入っていないので、どうか。

事務局 これまでの議論では家に引きこもりがちな定年退職者を地域に引っ張り出すしかけてして囲碁・将棋が話題になっていたが、退職男性に限定せずに人がふれあえるしかけを用意するという考え方もあるだろう。

国保委員 この日にはどんな女性が来るのだろうか。

西山委員 私どもは市民館デーで多摩川音頭を踊ることになっている。区民祭でやるときは参加者は100人くらいだが、市民館デーの場合は舞台の広さもあるのでそれほど参加しないだろう。ほぼ100%女性だ。他にも女性は来ると思う。

辻野部会長 これまでの議論では、どんな趣味を実施したらよいかの議論のときに、大津委員が将棋をする場合は、ゲストとして参加をお願いできる有名で強い人がいる。その人が会合に来てくれれば、興味をもって参加する人が多くなるだろうという判断もあった。資料に囲碁の道具が15セットとあるのは、市民館にそれだけあるので貸出せるということだ。将棋をするとなればどこから持ちこまなければいけない。

国保委員 将棋の道具はどこにでもありそうだ。いこいの家のものが借出せないか。

本多委員 いこいの家の道具の貸出しは難しい。個人で持っているものを借出すしかないだろう。

国保委員 私のところに将棋の道具は4～5セットあるので持ってくることはできる。

事務局 この部会で検討すべき問題は、8月の市民館デーでふれあいの試みをするかどうかということと、いわゆる囲碁・将棋好きという決まりきった人だけでなく、より多くの人に参加してもらうにはどのような準備をすべきかという点だろう。将棋をするにしても単に将棋を指しましょうだけではなく、どんな楽しいしかけをするのかが問題となる。

国保委員 なんでもそうだが、やってみないと効果がわからないので、まず、8月にやるのがよいだろう。

石橋委員 市民館にも囲碁・将棋の同好会があるだろうから、その人たちが練習日が一日増え

てよかったと、単純に喜ぶ催しで終わっては、この部会の意図とは違うだろう。そこをどうしかけをつくるか。大きな将棋譜を貼り出して、指している様子がわかるようにするとか、それまで興味を持っていなかった人が興味を持つしかけを考えないといけない。

国保委員 囲碁・将棋をやる人は大体決まっている。囲碁・将棋をやるとなると、だいたいそれを好きな人が来るものだ。それだけでは面白味がないから、その人に誰か連れてきてもらうとするしかけなど、いつもの人だけでない波及効果を考えることが必要だろう。

辻野部会長 では8月になんらかの試みをやるということにするにしても、市民館デーまであまり日にちがない。

事務局 いまのところは、プログラムも仮の段階で、部屋も申し込みの締め切りが昨日で、これからどの部屋になるかが決まってくる状況である。その部屋でどのくらいのことができるかはこれからの検討になる。どのように参加してもらうかのアイデアが大事だという話で、ベテランの人は必ず初心者とペアで来てもらいようにする方法もあるだろう。

今日決めなければならないのは、まず、市民館デーにコミュニティ部会として試みをするかどうかということだ。

石橋委員 もしやるならば、この日は部会として皆んなで参加できないといけないか。

辻野部会長 どうでしょうか。皆さん、参加できるかどうか。

(全員、参加の意向を表明)

事務局 それでは正式な参加の申し込みをする。そこにどんな内容を盛り込むかはこれから考えることになる。

本多委員 将棋だったら、将棋を山にしてひとつずつと取り出すとか、周りを回るとか子供向けの遊びも加えるといいかと思う。

辻野部会長 我々がこのプログラムを考えたのは、定年退職者向けだが、子ども向けもやろうとするのか。

石橋委員 この市民館デーでは子ども区民会議を行う予定だが、そこに参加する子どもたちは区民会議だけの出演で終わるのだろう。区民会議をやっている時間に、囲碁・将棋に引張ってはいけないだろうが、市民館デー全体の行事としては子どもが来ても差支えないはずだ。

辻野部会長 多世代のふれあいが重要だという点を考えると、子どもや女性にどうやって参加してもらうかも大事だ。市民館デーの開館時間はどれくらいだろうか。

事務局 3月の学びのフェアは10時から16時までなので同様の時間になるだろう。

辻野部会長 それでは市民館デーに参加することとして、7月のできるだけ早い段階に内容を考えなければいけないことを自覚しながら、3つ目の取組「農業の切口から地域の絆が生まれるしかけ」を議論しましょう。

配布資料のさといも通信にもあるとおり、コミュニティ部会が考えたような事業をJAセレサ、地域生産農家、多摩区保健福祉センター、菅町会、よみうりランドなどの連携ですでにやっていることがわかった。我々としてはこれ以外にやるとすれば、どういう視点でどこに働きかけるかという問題が出てくる。そういう点を検討していただくとよい。

本多委員 まちづくり協議会でも食育の視点から、8月29日にゴーヤを使ったエコクッキングをやる。また、日程ははっきり決まっていないが9月10日前後に多摩農マップのコースを歩きながら農家を回って、梨農家の三平さんの農園で梨のもぎ取りをすることを計画している。これには一般の区民も参加するが、区民会議の皆さんに参加していただいてもよい。

石橋委員 行事に参加するのはよいが、部会としてどういう提言をするかという点に結び付け

ないといけないし、その提言をもとにたとえばよそのグループがやる事業に参加するにしても、どのような参加の仕方があるかを考えないといけない。そしてその結果私たちの思いをどのように提言の文章につなげるかを考えないといけない。

国保委員 いろいろなイベントをやっているにしても、食育として何を食べればどうなるのかという点について、学べる機会がほしい。私は医療よりも食が大事だと考えている。その人の生活に足りないものがあるから病気になるのであって、その食を補ってやればよい。今の医療は医者なんに対しても薬を出す医療だが、それでは健康にならない。栄養学の中で酵素医療が注目されているが、たとえば、里芋はいろいろな芋の大本の芋であって、人間の体に大変よい。これだけ食べていけば人間が生きていくことができるくらいの食べ物だ。しかも洗ってすぐ、できれば加熱しないで食べるほうが健康によい。体に不足している成分が里芋には入っているので、しっかり食べれば長生きもするし、元気老人になる。不足する成分を入れてから注射をすればよいが、入れずに注射をしても治らない。医者自体が体を健康な方向にもっていくための捉え方がうまくできていない。そういう話をどこかでしておきたい。

石橋委員 里芋掘り大会は JA 菅支店が関わっているが、JA は他にも稲田支店などある。もしコミュニティ部会でこうした試みをしたいのであれば、他の支店に同じようなことができないか聞いてみる必要がある。そのプログラムに国保先生の講話を組み入れることを考えてはどうか。

辻野部会長 菅支店で実施されていることを他の支店に広げることを提案することを考えることか。

国保委員 菅支店の試みはいいことなので、この事例の分析は必要だろう。

辻野部会長 JA 菅支店や菅町会などにヒアリングしてから我々の案をまとめるか、それとも我々の案をまとめてから菅支店や町会にヒアリングをするか。その場合 JA や町会との接触は事務局ができるのか。

国保委員 このイベントには JA セレサ女性部や食生活改善推進員などたくさん人数が関わっているようだ。そういう人たちに食の大切さを話して知っていただいて、広げていきたい。

石橋委員 梨は健康からいってどうですか。

国保委員 果物は最高の食べ物。梨についてもお話できる。果物は食べられるためだけに世界中で成っているもので、すばらしい食物だ。

石橋委員 それを考えるとまち協が9月に行おうとしている梨ツアーにこの部会の目的を付加しながら連携し、国保先生にお話していただくのがいいと思うが。

本多委員 もし国保先生が梨についても食育のお話をしてもらえるのであれば、そのような行程に組むことは、可能だ。当日は10時頃から14時頃を予定している。

石橋委員 この事業については是非白井委員に来てもらいたい。白井委員が出席の都合がつかないため、農業の部外者が議論していることにちょっと不安がある。もう一度白井委員の意見を聞いてみる機会をつくりたい。

辻野部会長 白井委員は忙しいのだろうか。

事務局 毎回会合のある日程についてはご都合を聞いて開催しているが、出席していただけない状況だ。

石橋委員 白井委員がいわばこの農のしかけの言いだしっぺなので、これまでの経過報告をし、このようにやりますという話はしておいたほうがよいだろう。それ以上のかかわりを求めなくても仕事で忙しいのならば無理であるし、区民会議の報告の期限もあることだから、白井委員が関われなくても進めざるを得ない。

事務局 白井委員にお話しする場合、ゼロからアイデアを出していただくことを求めるのか、コミュニティ部会としてこういうことをしたいがそれに対するどう考えるかと意見を聞くかなど、白井委員に何を聞くのかを決めてから、伺いたい。

石橋委員 白井委員は区民会議委員として JA から推薦された委員であるし、発端のアイデアを出した委員でもあるから、部会としてこういうところまで話は進んでいるのだが、意見はどうかということを知るとよいのではないかと。

辻野部会長 では白井委員には、部会としてこれまで考えてきた内容を伝えて、それについての意見を聞き、JA への対応も白井さんを通じてしたほうがよいのか、それとも部会が直接したほうがよいのかなど意見を聞くことにしよう。

事務局 白井委員に聞くことは、一つは、11月2日の里芋掘りについて、これを他のJAに広げる考え方について確かめる。過去にも他のJAに広げる試みがあったかどうかは事前に関係課に聞いておくことも必要かもしれない。二つめは9月に行われるまち協の梨もぎと食育活動に連動して国保先生のお話を含めて農・食育・健康のしかけを部会として行いたい、梨農家としてどう思うかの2点についてヒアリングすることではどうか。それならば具体的な問いかけなので答えていただきやすいのではないかと。

辻野部会長 では、それでいくこととする。最後のあいさつ運動の展開についての議論に入る。これについてはフォーラムまでの間にラジオ体操の実態調査を行うことや部会で参加できる地域にフィールドワークをするといったアイデアが挙げられている。また福岡で行われているあいさつ運動の事例が参考資料として配布されている。松本副部会長は本日欠席だが、自分の町内会は7、8月にラジオ体操がやっている、地域の絆づくりの参考になるのであれば参加はOKであり、全町内会にラジオ体操の実施について簡単なアンケートを実施することもよいかもしれない、という話だった。

国保委員 これまでは公園体操など高齢者が中心で行っている体操を多世代参加にもっていく話もでていたが、ラジオ体操を中心に据えるということか。

辻野部会長 高齢者がやっている体操は高齢者向けなので多世代型にはなりえないだろう。

国保委員 遅寝、遅起きの若者がラジオ体操に参加してくるかという話はあるが。

石橋委員 イベントカレンダーについてもアンケートをとるわけだから、そのときに松本副部会長のいうようにラジオ体操の実態についてもアンケートをすればよいのではないかと。自然災害部会でもアンケート実施の話が出ているので、ばらばらに行うのは町内会に迷惑であり、両部会で聞きたい内容を一緒に行ってはどうか。ラジオ体操については現在やっているか、また、過去にやっていたが現在やめているかを聞き、やめている場合はなぜやめたかを、「騒音が問題」「集まる場所がない」「参加者が減った」など選択肢に○印をつける簡単なものでやってはどうか。やる場合は自然災害部会の問題も含めてどのような内容について聞きたいか、区町連の会合などで了解を得ておかないといけない。

本多委員 アンケートの実施はよいが、区民会議での提言はどのようなものになるのか。ラジオ体操をやろうという提言か。ラジオ体操の現実を見たときに、ラジオ体操を絆づくりの機会としては使えないのではないかと考える。それよりもあいさつ運動の展開のほうがより現実的だ。

辻野部会長 これまでの部会では体操をひとつのツールとして地域の絆をつくろうとの話を進めてきたが、それは難しく先が見えているということならば、あいさつをする場所を役所や学校など適した場所を選んであいさつ運動の展開のほうに切り替えるか。その点もいよいよ白黒付ける段階だと思う。

本多委員 私は小さな自治会の会長をしているがラジオ体操は現実的ではない。子どもはほとんどいないし、高齢者ばかりだ。

小塚委員　うちは南生田の山の上のほうだが、二つの小学校の野球関係の子どもたちが知らない大人もいる中で、朝からラジオ体操を一緒にやっている。

本多委員　やるのはいいのかもしれないが、誰が主催するのか。すでにやっている自治会はよいが、新規にやろうとしたら大変でできない。

事務局　ラジオ体操をきっかけにして絆づくりをやろうという提言の場合は、実際にラジオ体操をやっているところがそれを有効に活用している事例があるとすれば、その情報を広げてほかの町会でもやってみようということが想定できそうならば、追及する価値があるという考え方だろう。あくまでも自主的に取り入れるという話で、ラジオ体操をすべての町会で強制的にやろうという提言にはならないだろう。また、多摩区内ではそれぞれの地域によって高齢化率もだいぶ異なるし、ラジオ体操を絆づくりのツールとして取組む提言は、それぞれの地域の実態から見て普遍性があまりなく、やっても無駄になるかもしれないという判断もありうる。そろそろ舵切をしないといけない時期だろう。自然災害部会も町内会にアンケート調査をする。そこに祭りやラジオ体操について聞くとすると簡単なものであっても、1テーマ3~4問の質問になるだろう。そうすると先の見通しをはっきりつけて、無駄な調査はしないほうがよい。

本多委員　多摩区でも登下校をお年寄りたちが見守っているが、必ずしもあいさつをしているわけではない。その時に必ずあいさつの声かけをしようと徹底していけば、あいさつ運動のきっかけになる。

小塚委員　麻生区の東柿生小学校は通学路が狭くて危険なので交通安全のボランティアの地域の皆さんが箇所箇所立っていて、おはよう、おはようと声をかけ合っている。朝通るだけで子どもと地域の住民との間であいさつが交わされていると思う。交通安全のボランティアの方たちの緑色のジャケットも目立って、あいさつしやすい。東柿生は狭いからそれができるのかもしれない。広い通りだと見守るだけで、子どもたちは校門に黙って入っていつてしまう。

辻野部会長　ラジオ体操を絆づくりのひとつのツールにするか、それはなかなか難しそうだから、役所、学校、地域であいさつが交わせるような運動に切り替えていくか、ふたつの意見が出た。ラジオ体操のほうも実態を調べてから切り替える考え方もあるから、選択肢は3つになるかもしれないが、時間との競争もあるので、どの方向を選択すればよいか。

国保委員　現実的にはあいさつ運動だが、これまでの議論の顔を立てて一応簡単なアンケートは実施するということになるのではないか。

石橋委員　私自身も町内会でラジオ体操をやることになった場合は、実行は難しいと思う。しかしこの部会の議論の始まりは知らない人同士では声をかけにくい社会になって、人と人の絆をつくるにはどうしたらよいかの議論で、お祭りと体操を人が知り合うツールとして考えてきた。なぜ、ラジオ体操がなくなったのかは、子ども会が機能しなくなったからだと思うが、なくなったものはそれでいいということではなくて、もうすこし掘下げてから、他のものに取組むことが必要ではないか。また6時半から放送に合わせてやるだけがラジオ体操ではないので、遅寝遅起きの社会でも工夫する余地はあるかもしれない。人と人が知り合う機会について考えているのだから、人と人が知り合う機会がなくてよいことになってしまえば、知らない人にあいさつはなかなかできない。

小塚委員　地方に行くと知らない人でもあいさつを交わすことが普通になっている。昔は改札を通るときに駅員さんにおはようございますとかあいさつや会釈をしていたが、今は電子カードで改札を通れるから、黙って入ってしまいあいさつしなくなった。地方ではそれがいまだに残っている。

辻野部会長 それでは今日の段階では一応ラジオ体操のごく簡単なアンケートは行うが、あいさつ運動の新たな切口を探すこともあるということにする。

それでは最後に今後の会合の持ち方について議論する。8月の市民館デーまで時間があまりないが、囲碁・将棋だけでよいのか。

本多委員 囲碁・将棋をやる場合でも五目並べでもいいからできるだけ多世代で関わられるように初心者や子どもでも参加できる工夫をするのがよい。

辻野部会長 それらの工夫について考えることなど、4つの取組について詰めるための今後の会合の持ち方はどうするか。

事務局 自然災害部会は7月、8月に1回ずつ会合を行うことになった。

辻野部会長 それではコミュニティ部会も7月、8月と部会を持つこととする。

### 3 スケジュール

7月、8月の部会日程について話し合いを行い、第6回、7回部会は、次の日程で行うことになった。

○第6回：平成25年7月26日（金）18：00～

○第7回：     "     8月19日（月）     "

以上